

第4回 南砺市行政改革懇談会 会議メモ

平成17年11月22日(火)

午後1:05~2:50

福野庁舎 講堂

出席者

懇談会委員

川合友之、齊藤昭一、藤井 貢、清水壽一、北田正雄、塚田久俊、寺井孝夫、中藪淳一
長尾治明、奥村晃治、麻生 博、石崎直樹、岩田繁子、野原一司

行政改革推進本部委員

清都助役、山本収入役、梧桐教育長、向川市長公室長、堀産業経済部長、畑建設部長、
平本議会事務局長

事務局

三谷総務部次長、青島行政管理室長、石崎主幹、小森主査、森主事 以上26名出席

欠席者

懇談会委員 石黒厚子、野村玲子

2名欠席

【開会宣言】

【助役あいさつ】

来年1月末頃に第5回の懇談会を開催し、提言の取りまとめを行うため、今日は「懇談会の提言」の仕方についてもご意見をいただきたい。また、午前中は議会からも「提言」をいただいたところである。

【長尾会長あいさつ】

本日は、時間に変更があり、短くなっている所以要領よく時間内に収めたい。皆様のご協力をお願いしたい。

【報告事項に入る】

事務局説明

- ・第3回南砺市行政改革懇談会 会議メモを市のホームページに掲載していることのご了解をもらう。
- ・第3回懇談会の意見での指摘事項について説明する。併せて補足事項として

「行政改革大綱と各種基本計画の関係について」と

「行政評価と事務事業について」 を説明する

会長 報告事項で質問はないか

委員 評価は重要と考えているが「行政評価」は実際、誰が評価するのか。

事務局 役所内部の組織の担当部署で評価するが、最終的には、外部の委員も加わった委員会で評価する必要があると考えている。

【協議事項に入る】

事務局説明

- ・懇談会の提言の仕方について(案)
について説明

【意見交換に入る】

会長 前回からの大綱素案の検討課題や本日提出した提言の仕方(案)について、ご意見いただきたい。今まで話をして来た「検討課題」については下線で示して「提言」の中に盛り込みたい。

委員 「提言」の仕方の「はじめに」の中で2箇所「市町村合併」を使用している。表現の仕方としては「町村合併」が良いのでは。

事務局 国や合併協議会では市、町、村、関係なく使用しているので「市町村合併」と表現した。懇談会としての提言であるので、どちらが良いか委員の皆さんに決めてもらいたい。

委員 具体的に「8町村合併」が良いのでは。

会長 地元の実体感が出るので「8町村合併」の表現でいかがか。

全委員 「異議なし」の発言

委員 提言の表紙で何故「危機的」という厳しい表現をするのか。「切迫的」などのやさしい表現でいいのでは。

会長 「危機的」の表現も修正する。

副会長 「危機的」の表現は「厳しい」に修正すれば良いのでは。同じ表紙で「断行」と表現されているが「推し進める」が良いのでは。また「市の行財政改革」とあるが、市を削除し「行財政改革」が良いのでは。また「推進を図り」とあるが「発展推進を図る」が良いのでは。

行政改革は厳しいのは解るが、提言は全体的にやさしい表現の仕方が良いと思う。

会長 職員の方の行革意見もあると思うが、ここには掲載しないのか。

事務局 職員の行政改革提案は全部で427件の意見があり、現在、別に整理を進めている。担当各部署で提案内容をとりまとめ中で、この意見は行政改革の実施計画となり数値目標等も掲げ、大綱や提言とは別に取組みたいと考えている。

委員 提言の仕方で、今までの大綱素案の検討課題のア・イ・ウの部分を下線で示してあるが、全部提言に載せるのか。

事務局 今のところ載せたいと考えている。一度原案を作成し、委員の皆さんに示したい。

委員 第2回の資料で、類似団体との比較表を見ると、歳出では、南砺市は土木費や教育費が多い。行政改革では何を減らすかと言えば、補助金を減らすしかないのかと思われる。たとえば、市民等のいろいろなサークル活動の補助金を削減するならば、職員の人件費も減らすべきでないか。

類似団体と同規模なのに職員数は多いのではないか。10年で200人削減するといっているが、新市建設計画での10年後の人件費の額は、単に200人減らした額になっているのではないか。民間のように、職員給与の削減がないのではないか。行政改革を実施する上では、市民も不満があるのではないか。

事務局 意見としてお聴きし、行革全体の中で適切に取り扱って行きたい。

委員 「提言の趣旨」と「意見交換要旨」について整合性がとれていない部分もあるが、どう考えるのか。

事務局 「提言の趣旨」と「意見交換要旨」との整合性については、議論過程で発言された委員の皆さんの異なった意見を集約して提言となっているが、議論の過程を残しておくことも大切だと思っている。よって異なってもしかたがないと思っているが、載せるかどうか委員の皆さんの意見をお伺いしたい。

委員 「意見交換要旨」は提言とは別にして、全部記載した方が良い。

会長 この意見でよろしいでしょうか。

全委員 「異議なし」の発言

会長 それでは、「提言の趣旨」と「意見交換要旨」は切り離して進めます。

委員 行革懇談会では、いろいろと意見を述べて来たが、議会の関心度はどうか。

事務局 議会でも、この行革懇談会については、非常に高い関心を持たれており、いろいろと質問も受けている。答弁では行政改革の体制づくりを説明した。まず、市長が本部長となる行革推進本部を設置し、その下に職員からなる幹事会等の組織をつくり、各部での行革会議等で行革を推進することや、市民からなるこの行革懇談会を設置し、意見をもらう事等も説明した。また、この行革懇談会は公開しているので、傍聴できることも伝えてある。また、この懇談会の資料は議会事務局にも届けてあり、目を通してもらっていると思っている。

委員 今までは、大綱素案の検討課題を中心に意見を述べてきたが、この提言ではあまりにも抽象的で、具体的なものが見えない。たとえば、A3 横長の資料の備考欄には、具体的な施設名等が記載されているが、これらを提言の中に入れて解りやすいのではないのか。

事務局 備考欄は、現状のものを記載してあり、整理し資料として添付しても良いと考えている。

委員 住民側から言えば、「一層の公正性の確保」や「行政の透明性の向上」が重要であると思う。提言(案)の中では、それが明示されていないと思う。記載すべきでないか。

会長 提言(案)の中に、「情報公開」を明示することで、より一層の行政の透明性が向上し、公正が確保されるのではないかと思う。事務局としていかがか。

事務局 そのようにいたします。

委員 先ほど、類似団体との比較の意見もあったが、隣の街である砺波市や砺波広域圏事務組合はつながりが深い。そこは既にいろいろな事業を行っており、もっとネットワーク的に協働で行う新たな事業等があるのではないか。たとえば、観光的なものやコミュニティバス等が考えられる。実現されれば、より効率化が図られるのでは。

事務局 必要があれば、そのように連携を図りたい。

会長 先ほど、類似団体との人件費を比較する意見もあったが、比較資料で総体的に比較する場合や構成比での比較、また、人口当たりの職員数での比較など、職員数の削減については、市民が納得するよう解りやすく検討する必要がある。人件費の削減について他の意見はないか。

副会長 意見交換要旨の中で、中学校の 30 人学級の話があるが、これに関しての他の学校と比較する資料がないままで意見を述べてきた。よって提言では抽象的になっても仕方がないのでは。

会長 私は、抽象的になってもかまわないと思う。30 人学級や人件費についても、資料がない状況で意見を述べている。今後の課題としては「市の統計資料」の作成や見直しが必要でないか。

委員 「人事評価制度の導入検討」となっているが、民間では当たり前のことで「導入」にすべきでないか。

事務局 本年、国の人事院勧告には「人事評価制度の整備」が盛り込まれ、「査定昇給」を来年から実施する勧告でもあった。よって、国や県は実施する考えで、南砺市も調査準備し勤務成績に応じた昇給を実施する考えである。現在、このことを職員組合に申し入れたところである。

先ほどの人件費の職員給与については、比較するものとしてラスパイレス指数があり、県内では南砺市は低い方だが、類似団体は高い状況にある。

委員さんが言われたとおり、新市建設計画での 10 年後の人件費の額は、人数を減らした額で、個々の給与を削減し、組入れた計画ではない。

委員 南砺市のことは詳しく知らないのですが、前にいた北海道 K 市を例に言うと、現在、合併の準備

中で、情報公開し市職員の平均月額給与は 43 万円、民間は 24 万円で倍近くあった。また、K 市職員は高く、周りの町職員は低いので、どちらに合わせるのか、人件費の議論が高まった。

大綱での位置付けが重要でないか。人件費の見直しについては、人数を削減しただけでなく、給与を削減しないと住民から納得してもらえないのではないか。

会長 先ほど「透明性の向上」の件もあったが、給与については、行政側の説明不足もあるのではないか。普通のマーケットで、高額のものは説明されており、消費者も納得して買っていく。行政においても同じことが必要でないか。

委員 南砺市のラスパイレス指数の現状は。

事務局 試算ですが 90.5%です。

委員 南砺市の平均給与は。

事務局 当初予算ベースで諸手当を入れ平均月額は 371,000 円で、平均年齢は 43 歳です。

委員 定数の見直しで、10 年で 200 人削減については積極的な判断で進めて欲しい。

会長 本日は、提言(案)についても検討いただき、提言のイメージがつかめたのではないだろうか。次回まで提言内容や従来の検討課題についても再度検討願いたい。

委員 もう一点意見を述べたい。従来の検討課題で P1「簡素・合理化を旨とした事務事業の見直しと行政評価制度の検討」の文中に「堅確化」の記載が必要でないか。また、P2「民間活力の導入(PFI 手法の活用)と業務移譲」で PFI にこだわらず、他の手法もあることから「等」を入れ「PFI 手法等」に変更すべき。

事務局 検討します。

助役 合併して 1 年、職員は地域や職場でしっかり頑張っている。指定管理者制度についても、12 月議会でいくつか条例改正し、来年 9 月まで施設管理を指定管理者へ移行して行きたい。

本日、議会から行革やまちづくりへの提言をいただいたが、保育所の統合や観光関係の連携などもあった。その背景には職員の削減がある。現状では、沢山ある公共施設運営に職員の他に、臨時職員を 70~80 人必要としており、職員はだぶついている。しかし、このような状況でも、なんとか 200 人の削減を行いたい。

類似団体とは単純に比較出来るものではないが、いずれにしても、大きな将来の目標を持ち、着実に行政改革を取組んで行きたい。

事務局 次回は 1 月 31 日開催を確認。

【閉会宣言】